

## ちょっと怖かった話 —私のメキシコでの体験—

伊藤 暁子

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

私は、メキシコで警官に連行されて警察署に勾留されたことがあります。連行の理由は、外でお酒を飲んでいたので。海外には、外での飲酒が禁止されている国があり、メキシコもその1つです。私はそれを知っていたにもかかわらず、ある日の昼下がり、へまをしてしまいました。

その日、私は日本人の友人1人と蚤<sup>のみ</sup>の市<sup>いち</sup>に行きました。そこは屋外のマーケットでしたが、屋台でお酒も売られており、マーケットの敷地内であれば飲酒OKでした。私たちはカクテルを飲みました。しかし、全部は飲みきれませんでした。残りは捨てればよかったのに、貧乏性で、結局カップを持ったままマーケットを出て、少し先の公園でちびちび飲んでいました。するとすぐ警官がやってきて、私たちはパトカーで連行されてしまいました。

警察署に着くと、一連の流れを説明されました。まず医務室で健康チェック、その後に取り調べを受けて、最後に罰金を払って釈放、とのことでした。しかしほかにも連行された人々が1階のフロアだけでも50人近くもいたので全然順番が回ってきません。

私はトイレに行きたくなり、警官にお願いすると2階に案内されました。鉄格

子の部屋が並び、30人位が詰め込まれ、悲鳴や奇声が響いていました。警官は誰もいない部屋の1つを指さし、そのトイレを使えと言いました。真っ暗な8畳程度のコンクリート部屋で、端に便器がぽつんとありました。鉄格子から丸見えですが仕方ありません。すると突然、お経のような声が聞こえてきました。目を凝らすと、その部屋の片隅で、頭からパーカーを被った男の人が、体育座りをしてブツブツ何やらつぶやいていたのです。さすがの怖さに私は1階へ駆け下り、女性警官を探して懇願し、職員用トイレを使わせてもらったのでした。

いつしか到着から5時間近く経っていました。健康チェックすらまだです。その時でした。警官の1人が私に「君の友達、顔色が悪いけど大丈夫？」と声をかけてきました。友人に確認すると、「具合悪くないよ。顔色が悪いのは生まれつき。」と私に答えました。しかし私は、これはチャンスだと思い、警官に言いました。「彼女は今にも吐きそうだと言っています。日本大使館に電話で相談していいですか？」と。すると、あれよあれよと私たちは医務室に通されました。

医務室には男性医師と女性看護師がおり、私たちを見て大変驚いていました。そして、私たちを連行した警官を呼び、「文化の違いで外国人は違反をしてしまうことがあるのだから、ここに連れてくるのは間違っている。外交問題に発展したらどうするんだ！」と、彼を叱りました。

その後私たちは、医師と看護師から「体調は大丈夫か、失礼なことはされなかったか」と確認されました。そして最後になぜか、「吐きそうな時はこれが一番の薬だよ！」と、コカ・コーラをごちそうされ、無事釈放されました。外に出る

と、辺りはすっかり夜でした。

(1188 字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.